

2020年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホームラブ
代表者・役職名 氏名 理事長 國分健作

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

すべての子どもが健やかに育つ

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

創設の経緯は、熊本には赤ちゃんポストがあり、家族の愛情を持たずに育った子どもたちへの支援に関わりたいという思いから施設を開設しました。
熊本では児童養護施設からの入所が多く、発達・精神・知的障がいの児童ばかりです。
働くことができない児童に対して、生活支援を行っているのが主な活動です。
会員数は、31人です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

思春期の児童にとって、親や家族の支援がないことでの課題は、計り知れない。
児童は、就労をして自立の為に必要な貯金や生活に必要な出費を行います。
高校で学ぶ保健知識がなく不安を抱えています。家族の扶養なら親が医療費を支払いますが、ここでは本人が負担なので、体調は後回しにする。結果、心身を病んでいる。
九州は地震も発生し、防災への備えも必要です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ① グループ内他施設との合同合宿で対人協調性を学ぶ機会を与えたい。
- ② 年に1回定期検診を決めて、児童全員に受診させ体調管理をする。
- ③ 11月に予防接種(インフルエンザなど)を行う。
- ④ 就労者の医療費予算を、月に一人2,000円設けたい。
- ⑤ 遠方への帰省を半年に1回。
- ⑥ 通信高校などの年に数回の遠方への交通費・宿泊費を支給したい。
防災グッズを一人1セット備えたい。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

助成金にて体験ができた子どもたちが、安心して大人に頼れる姿勢ができました。特に医療費や遠方への帰省に関しては、喜んで子どもたちばかりで、ありがたみを感じていました。
子どもたちの感覚として、『良い人もいるんだね』という発言などが印象的でした。
また同グループ内で助成金を得られていない所とも差があることに感謝していました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

新型コロナウイルス感染症に伴い、公共機関の移動が困難となり、宿泊を伴う合宿は施設合同で執り行う形となりましたが、児童同士が交流を持つことで、その後の支援により良い形となりました。
医療費や規制などの費用については、とてもありがたく子どもたちも喜んでいました。
今後の課題としては、新型コロナウイルス感染症対策を取り組みつつ、児童が他の施設児童や職員と交流をする機会を設けて、行き詰まり感がなく、子どもたちが頼れる居場所を増やしていきたいと考えています。

7. 参考資料

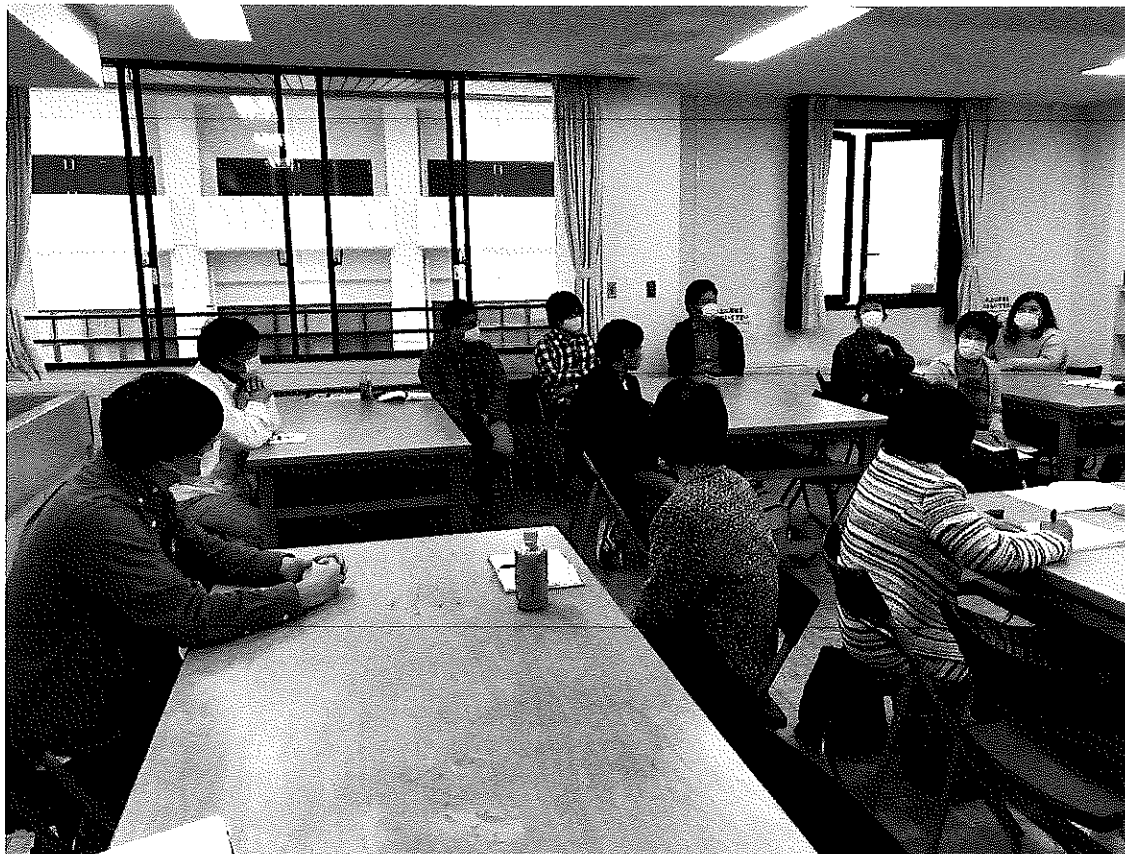
支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

【合同合宿 おせち料理】



【合同研修会（セミナー）】



【合同合宿 初詣】

